

令和の時代を迎えて

(理事長 山崎健一郎)



新年明けましておめでとうございます。昨年中に皆様方から賜りましたご支援とご協力に対し厚く御礼申し上げます。

うか。

令和になって初めての新年を迎えました。年号が変わり、何か新しい時代が始まる期待感があります。

今年は、東京でオリンピック・パラリンピックが開催されます。2025年には、大阪・関西万博もあります。我々の世代は、オリンピックと万博を2度経験する機会に恵まれました。

しかし、世界景気は減速し、新年早々、アメリカとイランの対立に伴う中東情勢からも目が離せません。先行き不透明で、将来に対する期待と不安の交錯した年明けになりました。

今年の干支(庚子・かのえね)は、変化の激しい年になると言います。良い変化を期待し、前向きに行動して行きたいと思っています。

我々、NPOを継続して行く為には、新しい事業・顧客の開拓なくしては難しいと痛感しています。

その為には、会員の増強もはかり、設立時にメンバーが共有した熱き思いである「チャレンジ企業支援隊 運営理念と運営方針」(4頁に掲載)を堅持して、事業の推進を図って行く決意を致しております。

又、NPOの日頃の活動にあたっては次のスローガンを全員で実行して行きたいと思っています。

S:スピーディ、O:オープン、S:スマイル

NPOはボランティア活動です。明るく楽しく活動出来る様、会員の皆さんと心と力を合わせ取組んで参ります。

今年も、中小企業様の人づくり、課題の解決等に尽力して参ります。引続きのご支援とご鞭撻を願ひし、年頭のご挨拶とさせていただきます。

マーケティング部会の活動について

(理事 マーケティング部会長 馬場英彦)



毎月第2木曜日を部会活動日として活動を続け、昨年末には第180回を迎えることができました。

マーケティング部会は、「産・学協働のプラットフォーム」として、約15名の部員が参加し、学生も加わっ

て、当日のゲストスピーカーと真剣な話し合いが行われ、大いに盛り上がっております。

(一社)兵庫県信用金庫協会が主催する「川上・川下ビジネスネットワーク事業」にGMSとして参画しています。具体的には、信用金庫様の顧客企業様を訪問し、企業が抱える販路開拓や後継者育成等についての課題をお聞きし、部会に持ち帰り部員のネットワークや企業とのマッチング活動を通じて企業様や地域社会の活性化に貢献しています。

企業様からは自社の商品創りから、如何にお客様に愛用して戴くか、またどのような販売経路でお店にたどり着くのか、馬場が所属する大阪市立デザイン教育研究所(D研)で「デザインビジネス演習」の授

業の一環として学生から商品自体



D研での部会の様子

のデザインや広告デザインの提案まで真剣にグループワークの中で検討し、デザインスケッチや企画書として提案し、これを受けて、マーケティング部員は自己の持つビジネスネットワークの中から最も効果のあがるマッチング先を検討しご提案します。

さらに企業の第一線で活躍する外部講師を招き、D研生のキャリア教育も視野に入れて、若い企業のデザインを中心にビジネスのあり方やマーケティングの展開を支援しています。

これらの活動から生まれた商品として奈良県御所市の靴下メーカーでは若者の感性を生かした楽しい靴下が誕生しました。兵庫県高砂市の地下足袋メーカーからの相談でインバウンド客から人気の和柄の地下足袋が、東京五輪で盛り上がる中で人気を博しています。

少子高齢化が叫ばれる中で、ヤングママを応援する一環として一瀬麻里さん(童話作家 GMS 会員)と出版社がタッグを組んで、毎年(年4回/季刊・全6話)発行の童話シリーズが人気を呼んでおり本年で5年間連続して掲載されています。

新理事としての抱負

(理事 甲斐 宏)

<社会への恩返し>



私は、パナソニック(溶接関連分野)、イトーキ(オフィス関連分野)で、一貫して「モノづくり」全般を経験してまいりました。定年後は海外に軸足を移し、JETRO 専門家として、インドネシア金型工業会(IMDIA)の裾野人材育成、ナ・デックスでは、関係会社の指導、育成等に取り組み、70歳を節に、現役を退きました。

退職を機に「社会への恩返し」を強く意識する様になり、一昨年10月に、GMSに入会いたしました。

社会環境が変わり、従来のNPOが担っていた活動も、公的機関で賄える様になり、NPOとしての活動も大きな岐路に差し掛って来ております。

特に、次の2つの活動に注力するつもりです。

- ①「GMS経営勉強交流塾」の量、質の充実。
- ② KIAC(関西産業活性協議会)のBMC(ビジネスマッチングコンシエルジュ)として、サポイン企業と川上・川下企業とのマッチングを推進し、それから派生する個別の「課題解決」をGMSとして担う。

GMSの運営理念である「社会貢献」の実現に向けて、微力ながら努力してまいる所存です。GMS会員の皆様、どうぞ宜しくお願い致します。

第39回GMS経営勉強交流塾を開催しました

日時:2019年12月12日(木)14:00~19:30

場所:株式会社 魁半導体

- 1)「産業応用に向けたプラズマ装置の開発状況」について、登尾課長よりプレゼンを頂きました。

プラズマ処理は対象物を表面処理することで接着

効果や洗浄効果を高める技術です。

2)GMS 阪本執行役より「4K・8K、中国の放送と通信の融合の最新動向」について解説がありました。



会議・見学終了後の記念撮影

けいはんなまちづくり協議会の事務局活動

事務局長(執行役 井原 章)

けいはんな学研都市精華地区まちづくり協議会(会長:(株)タカコ相談役 石崎義公氏)は、2009年(平成21年)8月に設立され、けいはんな学研都市の精華地区に拠点を構える企業が会員となり、学研都市に相応しい環境を維持発展させるとともに企業間相互の連携を深め地域の発展に寄与する目的で活動を行っています。



GMSは設立時から事務局業務を受託、協議会として必要な運営規約・規程の制定や協議会の目的を効果的に達成するための具体的な活動企画と実施をマネジメントし、協議会活動の活性化に貢献しています。

まちづくり協議会は令和元年度に創立11周年目に入り、公益社団法人京都産業21様や精華町商工会様と連携を図りながら地域社会とも協働し、けいはんな学研都市に相応しい良好な環境づくり活動を進めています。

特に今年度は、まちづくり協議会発足当時から行政や関連企業に対し強く要望していた「京阪奈新線新祝園ルート早期延伸」が、町および町議会においてその必要性を再認識され、早期実現に向け力強く行動を起こすことが決定されました。具体的には、令和元年11月11日に「京阪奈新線新祝園ルート整備促進協議会」が設立され、まちづくり協議会はその監事役を担うことになりました。その後開催された「早期延伸を求める決起大会」では、近経局、京都府、精華町議会、地域の関連団体、各企業の

代表者の方々など140名が集い、京都大学大学院教授藤井様から京阪奈新線新祝園ルート延伸の重要性を説く熱きご講演を頂き、全員で実現に向け



整備促進協議会設立総会

行動を起こそうとの決意が示されました。これからも事務局として、けいはんな学研都市の発展に積極的に貢献すべく様々な活動を企画するとともに実施のマネジメントを担って参りたいと決意しています。皆様方のご理解とご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

奈良県よろず支援拠点 発足から五年半経過

奈良県よろず支援拠点チーフコーディネータ
(執行役 松村 二郎)

2014年6月に中小企業・小規模事業者の為の無料経営相談所として各都道府県に一か所設置され、全国一斉にスタートした「よろず支援拠点」は、発足して5年半が経過しました。私が責任者(チーフ



コーディネーター)を務める奈良県よろず支援拠点では、年々相談件数が大きく増加し、現在は毎月500件を超える相談を受けています。ご相談事業者の満足度も極めて高く、おかげさまで地域活性化のハブ機能としての役割を果たせつつあると喜んでおります。

近鉄奈良駅前のサテライトオフィスでは、夕方や土曜日もオープンしています。更に、週5回の頻度で県内の各支援機関と連携したセミナーや出張相談会を実施し、またテレビ相談システムの導入により遠隔地の事業者の皆様の利便性アップにも取り組んでいます。

このような活動により、奈良県事業者にとってなくてはならない経営相談所となりましたが、今後更に事業者に寄り添い、成果がしっかりとあがる支援をしなければならない、と決意しているところです。

相談内容の内訳は「売上拡大」42%、「創業」34パーセント、「経営改善」が17%、「事業承継」が6パーセントとなっています。『創業から事業承継まで』を当拠点のキャッチフレーズに、事業者のラ

イフステージに沿ったあらゆる経営相談の対応に取り組んでいます。

2020年度の当拠点の活動方針は、「徹底的に相談の質にこだわり事業者の課題解決向上を図る」です。経済環境が不透明さを増し、情報不足や経営リソースの乏しい中小企業の経営環境は厳しさを増しています。事業者にしっかりと寄り添うという活動の基本に、今一度立ち返り徹底したいと思っています。当拠点は、私とアシスタントのコーディネータ(経営相談の専門家)13名、事務スタッフ



若手が多かったセミナー

3名の17名体制です。4月から事業7年目となる新年度となります。当拠点のパワーを更にアップした事業推進をしていきたいと思っています。皆様のご理解とご支援を、今年もどうぞよろしくお願いいたします。

奈良県の福祉事業所支援活動

(理事 事務局長 南部 英治)

社会福祉事業所とのお付き合いも12年になりました。事業所それぞれに『障害を持った方とともに如何により良い社会を築いていくか』を理念に掲げて活動されておられます。



平成29年の奈良県の民間企業における障害者の実雇用率は、2年連続で全国第1位になりました。

しかし、障害のある方が働ける場所はまだまだ少なく、パン、ソーセージ等の食品づくり、レストランの運営、編み物の製作・販売、パソコン再生、ホームページの制作・運営、お茶の栽培などそれぞれに働く場づくりに取り組んでおられます。

一方、福祉に対する国の補助は年々減少傾向にあるため、障害を持った方とともによりよい生活を過ごせる場を作ることを目指しながら、事業経営も進めなければならない難しさに直面しております。

このためGMSとしてもお手伝いできることは何かを考えながら事業企画の作成、商品開発の進め方、販路の開拓等の支援活動を続けております。

2019年の活動内容

GMSの概要

GMS経営勉強交流塾

第38回「明治42年創業の伝統事業、新規事業・スタートアップ支援に学ぶ」

(株)木幡計器製作所(3月)

第39回「産業応用に向けたプラズマ装置の開発状況に学ぶ」

(株)魁半導体(12月)

企業経営・事業支援

- ・次世代を担う経営人材づくり実践塾の開催
- ・ISO 9001:2015 認証取得支援(S社)
- ・機関誌の挿絵・デザイン支援(S団体)
- ・新製品紹介事業(M社)

産学連携支援

- ・日刊工業新聞社主催、学生による「キャンパスベンチャーグランプリ(CVG)」の応募支援
- ・2025年大阪・関西万博の大阪メトロへのイベント提案支援

川上・川下BN事業コーディネータ活動

企業ニーズ調査訪問・マッチング企業紹介等
(主催機関:兵庫県信用金庫協会)

関西産業活性協議会(KIAC)との連携

- ・ビジネスマッチング事業への参画(事務局・運営グループメンバー)
- ・会員によるKIAC催事の講師担当
総会(6月)西川由喜氏
「人生100年時代 長寿と言う贈り物」
講演会(12月)高島 徹氏
「戦国武将に学ぶ決断力」

奈良県「障害者施設」事業支援

新商品開発、販売支援(H施設)

けいはんなまちづくり協議会事務局活動

年度決算・予算策定・行事等の実施

GMS新春講演・交流会(1月)

講師:WINTH代表 西川由喜氏



第17回総会後の懇親会(6月)

運営理念

社会貢献を基本精神とし、人的なネットワークと連携を大切にしながら、会員の経験・知識・専門技術を活かし、中小企業やベンチャー企業等の支援を通じて、経済社会の活性化と地域社会の健全な発展に寄与することを目指す。

運営方針

- 1.社会貢献を第一義とする。
- 2.会員は人的なネットワークと連携を大切に
する。
- 3.会員は互惠互助の精神で事業にあたる。
- 4.会員は自己研鑽・自己啓発につとめる。
- 5.専門部会を設けて、自主的な研究や事業の企画
実践にあたる。

認証取得と設立

2003年12月(奈良県知事より認証取得)

2004年1月(設立総会)

活動の経緯

中小・ベンチャー企業の支援を、主たる目的としてスタートした。その後、奈良県との協働事業を行う中で、「NPOの中間支援組織」としての期待も高まり、2009年定款に「⑨公的機関及びNPO法人等の公益団体との連携・協働による支援、指導、助言の事業」を追加する。

2010年一般社団法人関西産業活性協議会(KIAC)の設立発起団体となり、活動分野・範囲が広まって来た。

会員募集中です

皆さんの経験を活かして企業支援、地域おこしなどの社会貢献をしてみませんか。

興味のある方はぜひチャレンジ企業支援隊(GMS)事務局までご連絡ください。

GMS e-mail: gms@npo-gms.com

なお、詳細は下記ホームページをご覧ください。

GMS URL : www.npo-gms.com

なお、年会費は、次のとおりです。

正会員: 12千円(入会金2千円)

準会員: 2千円

賛助会員: 20千円